

「松川ダム堆砂対策検討委員会」

設立趣旨書

松川ダムは、天竜川水系の松川において、洪水調節、水道用水の確保及びかんがいを目的として昭和 50 年に完成した長野県が管理する多目的ダムである。

松川上流域は地形が急峻であることに加え、地質が脆弱で大規模な崩壊地が多く、土砂生産が活発であることから、ダム完成後の昭和 58 年台風などの度重なる出水で、ダム貯水池内に計画を上回る大量の土砂が流入し、利水容量や洪水調節容量内に堆砂が生じ、適切なダム運用に支障をきたしている。

この堆砂問題の解消と、洪水調節計画の予備放流解消による治水機能向上を目的として、平成 2 年度から松川ダム再開発事業を実施している。平成 27 年度末に流入土砂を軽減するバイパス放流設備が完成し、平成 28 年 9 月から試験運用を行うなど、順調に事業が進んでいるところである。

本委員会は、今後の事業実施にあたり、松川ダムのバイパス放流が施設や環境に与える影響の予測・評価、及び治水機能向上計画案の具体化について、学識経験者等の意見・助言を得ることを目的とするものである。